



マリンバイオ同好会活動報告 平成22年度No. 2

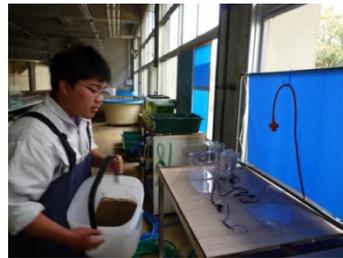
～2010年5月～

☆飼育管理

施設内を整理し、各所に設置されていた小型水槽を一か所に集めました。観賞や管理が行いやすくなりました。



【水槽台設置】



【水槽設置】



【セミエビ】



【サラサエビ】



【メダカ】



【ヤマトホンヤドカリ】

～2010年6月～

☆ヒラメ飼育

少し早目に登校し、飼育管理を行っています。写真は、ヒラメの稚魚に動物プランクトン「シオミズツボウムシ」を給餌しているところです。（プランクトンだけでなく、配合飼料も併用して与えています。）

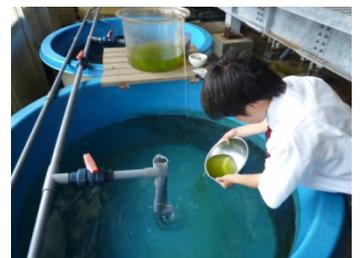
卵収容から約 1 ヶ月が経過しています。まだ縦向きに泳いでいますが、もう少しで着底して見慣れたヒラメの姿になります。よく見ると「眼」が片側に移動していくところを観察できる時期です。



【ヒラメ稚魚】



【培養槽からシオミズツボウムシを収獲】



【給餌】



☆キアンコウ

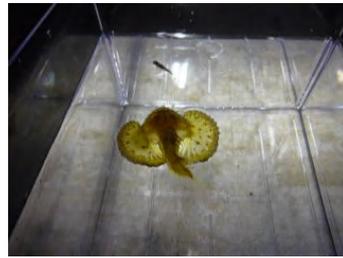
「テンガイハタ」と共に採捕した「キアンコウ」を飼育していました。生き餌にも付いて順調に成長していました。



【採捕直後】



【6/3 かなり慣れた】



【獲物を狙う】



【6/26 着底】

飼育は順調でしたが、これから高水温期となります。冷却機のないマリンバイオ同好会ではこれ以上の飼育は不可能です。そこで今後の飼育を「丹後魚っ知館」に御願ひしてみてもどうか？ということになりました。さっそく依頼してみると、快く引き受けてくださいました。部員一同、安心しました。



【6/28 旅立の朝】



【カップですくわれる】



【バケツへ】



【封入】

～2010年7月～

☆冠島魚類相調査

7月10日に冠島周辺で魚類相調査を行いました。昨年の調査(9月5日)では航行中や調査中に多くのエチゼンクラゲを見ましたが、今年はまったく見られませんでした。しかし、今まであまり見られなかったオビクラゲを多く見かけました。海洋高校棧橋で毎日行っている魚類相調査でも、よくオビクラゲを見かけています。

(昨年の冠島魚類相調査は9月でした、そのため時期の違いがあるかもしれません。)



【出航】

9時00分出航



【操船】

10時20分冠島到着



【見張り】

10時30分アンカーレッコ(N 35° 40' . E 135° 25')



【アンカーレッコ】



アンカーレッコ後、すぐに魚類相調査開始しました。天候も良く、凼でした。



【魚類相調査中】

14時30分魚類相調査終了、15時30分帰港。その後種類判別と測定を行いました。いつもアジがよく釣れるのですが、今年は1匹も釣れませんでした。一番多く釣りあげた魚種はアカササノハベラでした。



【種類判別と測定】

魚種	最大	最小	平均	尾数
アカササノハベラ	20.0 cm	12.0 cm	18.0 cm	52 尾
キュウセン	23.5 cm	13.3 cm	18.6 cm	8 尾
カサゴ	23.5 cm	17.0 cm	19.9 cm	4 尾
アサシアナハゼ	10.2 cm	10.2 cm	10.2 cm	1 尾
イサギ	26.8 cm	20.1 cm	22.4 cm	4 尾
マダイ	21.5 cm	12.8 cm	12.8 cm	13 尾
イシダイ	19.5 cm	19.5 cm	19.5 cm	1 尾
カワハギ	20.1 cm	20.1 cm	20.1 cm	1 尾
ウマツラハギ	34.5 cm	22.5 cm	25.3 cm	10 尾



☆海洋棧橋魚類相調査

水温の上昇につれて、今年も多くの魚種を観察できるようになってきました。



【アカクラゲに付随するイボダイを採捕】

【イボダイ幼魚】

7月4日の調査中に、初めて「イボダイ」の幼魚を観察することができました。「イボダイ」の幼魚はクラゲ類に付随して泳ぎます。エチゼンクラゲなどの大型クラゲにつくことが多いのですが、ミズクラゲなどについていることもあります。幼魚期はプランクトン食ですが、付随しているクラゲの体壁を食べたりもします。採捕したイボダイは現在飼育中で、配合飼料にもつき、元気になっています。

☆活動風景と飼育生物写真

マリンバイオ同好会では約50種類の生物を飼育しています。その中には魚類だけでなく、ヤドカリやカメなども含まれています。

